

体育施設の整備等と国民体育大会の招致について

【総務文教部会】

国民体育大会は、広くスポーツを普及し、健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と文化の発展に寄与するわが国最大のスポーツの祭典である。

長野県においては、昭和53年に「やまびこ国体」を開催したところであるが、その成功は県民に自信と誇りをもたらし、本県のスポーツ振興の大きな礎となった。

昨今、長野県体育協会などから長野県知事等に対し、2巡目国体の本県への招致が要望されているが、県内各市としても国体開催は地域の魅力の発信や地域経済への効果などが大いに期待できることから、歓迎するところである。

しかし、開催に必要な競技会場の多くは各市の所有する体育施設となることが予想されるが、これら体育施設は住民の健康増進や体力の向上、県内外からのスポーツ合宿による地域振興など広範な役割を担っているものの、その整備は各競技団体の公認も含め、所有者である市の負担となっている。

国体の招致・開催に当たっては、これら体育施設の整備等に対する県の支援策の創設を要望する。